

「ペア学年きずなアップ集会」をしよう

- ◇ 日 時 令和6年10月25日（金） 2校時
 ◇ 学年・組 第4学年3組 （27名）
 肢体不自由特別支援学級 第4学年 （1名）

- 1 議題 「ペア学年きずなアップ集会」をしよう
 （ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

2 議題について

（1）児童の実態

本学級では、「4（For） the Team～みんなのために力を合わせよう～」を学年目標に、「みんなで成長！スマイルチャレンジ」を学級目標に掲げている。授業や行事のスタートの際に学級目標を確認して意識を高めたり、学級で問題があったときは、学級目標に立ち返り、自分たちの生活を振り返る道標にしたりしてきた。学級会では、これまでに「みんなが1日がんばろうと思える朝の会の内容を考えよう」や「〇〇くんありがとうの会を開こう」などの議題について話し合ってきた。学級会やそれに伴う活動や振り返りを通して、他者のアイデアの良い所をつなげる合体意見や前回うまくいかなかった所を修正したアイデアを出すなど、経験の積み重ねによって、少しずつではあるが提案理由に沿った話し合いができるようになってきた。また、前年度の学級会で企画・実施した遊びの経験を生かし、児童が主体となって学年遊びも行った。

学級会についての意識調査（表1）を行った結果、項目1～3においては、肯定的に捉えている児童が多い。しかし、項目4においては、肯定的評価が76.9%と他の項目に比べて低い数値を示した。これらのことから、相手と自分の意見を比較しながら参加している児童が多いものの、より良い考えや方法に向けて意見を考えたり、伝えたりすることに課題がみられる。実際の学級会の場面においても、より良い解を導くための付け加えの意見や具体的な様子や姿をイメージできる意見が少ないことから、まとめる段階で決定打を欠くことがある。このことは、アンケート結果からも「意見がたくさん出た時にまとめるのが難しい」など、まとめる段階で課題を感じている児童がいることが窺える。

表1 学級会についての意識調査

項目	肯定的評価 (よくあてはまる)
1 学級会は、自分たちの学校生活をより良くすることができる。	88.5% (61.5%)
2 自分の考えを相手に分かってもらえるように相手に伝えていますか。	84.6% (38.5%)
3 自分の考えと相手の考えを比べながら参加していますか。	96.2% (46.2%)
4 ☒ 相手の意見を受け入れ、合意形成の手段を用いながらより良い考え・方法を見つけられています。	76.9% (38.5%)
5 学級会を通して成長したことや難しかったことなどを書いてみましょう。 ○今までは、手を挙げるができなかったけれど、3回も挙げることができました。クラスのみんなも賛成意見や心配意見をたくさん言えるようになってきました。 ○理由を伝えることができるようになった。 ●意見がたくさん出た時に、まとめるのが難しい。 ●同じ人が発表することが多いので、バランスよくできたらいいと思います。 など	

(2) 議題選定の理由

本議題は、「3年生ともっと仲良くなりたい」という児童の思いを議題化したものである。4年生は、「運動会」「ペア掃除」など3年生とかかわることが多い学年である。運動会では、3・4年生混合の小グループを作り、4年生が身振り手振りを加えてダンスを教えた。そして、7月からは、ペア学年としての掃除で、「中学年のリーダー」をキーワードにして、「3年生の良い姿をほめる」などの個人目標を立てて日々かかわっているところである。

一方、3年時から学級内で企画・運営してきた「お楽しみ会」や「学級遊び」が伝播して、「紙ひこうき大会」「リレー大会」などの「学年遊び」にまで発展していった経緯があり、学級から学年間のきずなが培われてきている。

このことから、学級遊びや学年遊びでの経験を生かすことで、3年生とのきずなを深めるための「内容」や「工夫」を考えることが期待できる。

このように、4年生がこれまでの経験を生かし、3年生という対象を意識してかかわることで、中学年のリーダーとして望ましい姿を考えたり、行動に移したりしながら、交流を深めることができる内容になると考える。

(3) 指導上の留意点

(事前) ○これまでの3年生とのかかわりを想起したり、どんな集会にしたいのかを考えたりすることで、活動への意欲付けを行い、具体的な会のイメージを共有できるようにする。

○提案理由を確認し、事前に自分の意見やその理由を個人カードに記入することで、根拠とともに自分の意見をもつことができるようにする。

○司会グループで話合いの流れを確認することで、学級会の当日の見通しをもつことができるようにする。

(本時) ○目的に応じた意見を考えることができるように、提案理由を確認し、「お互いの名前を呼び合える」「お互いにコミュニケーションがとれる」「3年生がしたいこと」の3つの条件を全員が意識できるようにする。

○ペアトークやグループトークの時間を設定することで、全員が意見をもって話し合いに参加できるようにする。また、発言が一部の児童に偏ったり、話合いが停滞したりした時は、グループトークの時間を設定し、みんなで考えて解決していくことを意識できるようにする。

○振り返りの場面では、提案理由に沿った意見、折り合いをつける意見や司会グループの頑張りなどを称賛することで、話し合ったことのよさを感じ取れるようにする。

(事後) ○活動に向けて、全員で役割分担し協力して取り組むことで、自分たちで企画し、実行していく楽しさや充実感を味わえるようにする。

○活動を通して気付いたことを共有することで、自分たちが考えた内容が反映され、それによって自分たちの生活がよい方向へ変化することへの喜びを味わうことができるようにする。さらに、改善点が出た場合はみんなで内容の修正を行い、よりよいものを創造する喜びと期待感をもつことができるようにする。

(4) 人権教育とのかかわり

この単元では、児童の思いを基にした議題について話し合う中で、建設的に話し合っ合意形成を行い、よりよい解を導き出す活動を行う。話合いの際には、目的に応じた意見が言えるようくきずなアップのための条件>を設定し、条件を確認しながら自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりして合意形成を図ることができるように工夫する。

3つの側面については、次のような側面を育成できると考えられる。

価値的・態度的側面	多様性に対する開かれた心と肯定的評価
技能的側面	能動的傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能

3 活動と指導の見通し

【司会グループの活動】

期日	時間	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
10/10	昼休憩	司会グループ会議① ・議題を決める。 ・提案理由を考える。 ・話合いの役割分担をする。 ・学級会コーナーに話合いの内容を掲示する。	・ペア学年で交流したことを振り返りながら、提案理由を考えるよう促す。 ・自分の役割と仕事の内容について見通しがもてるように、スケジュールの確認を行った後、声をかけたりする。 ・学級会コーナーに、議題・提案理由・決まっていることを掲示することで、話合いの必要感や期待感をもつことが出来るようにする。	・話合いの流れをイメージしながら、積極的に準備に取り組んでいる。 (観察)【主】 ・司会グループの役割や話合い活動の準備の仕方など、効率的な進め方を理解している。 (観察)【知】
10/15	昼休憩	司会グループ会議② ・学級会カードを確認し、短冊を作成する。	・意見を短冊にまとめることで、話合いの時間を確保できるようにする。	
10/23	昼休憩	司会グループ会議③ ・話合いの流れのシミュレーションをする。 ・板書計画を立てる。	・話合いの流れを確認し、自信をもって話合い活動に臨むことができるようにする。	

【学級全体の活動】

(事前の活動)

期日	時間	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
10/15	昼休憩	・「ペア学年きずなアップ集会」でしたい内容を考え、学級会カードに記入する。	・提案理由、話合いのめあてについて共通理解を図り、学級会カードに記入するよう促す。 ・会の目的を共有してアイデアを考えられるように、これまでの3年生とのかかわりと目指す自分たちの姿を具体的にイメージできるようにする。	・3つの条件や提案理由に沿って自分の意見を書いている。 (観察・カード)【主】

(事後の活動)

期日	時間	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
10/28 ～ 11/1	学活	・「ペア学年きずなアップ集会」の準備をする。	・目的を達成するために、自分の役割を確認したり、計画的に準備をしたりできるよう助言をする。	・ペア学年きずなアップ集会の目的を達成するために、協力し合って、友達と協力して取り組んでいる。 (観察)【思】
11/5	学活	・班で「ペア学年きずなアップ集会」を行う。	・活動のねらいを確認し、目的を達成できるように助言する。	

11/6	朝の会	・振り返りをする。	・振り返りをする事で達成感を共有し、さらに主体的に学習が進められるようにする。	・集会の成果と課題を振り返り、自他のがんばりに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 (観察・カード)【主】
------	-----	-----------	---	--

4 本時の展開 (本時 1 / 1)

(1) 本時の目標

3つの条件や提案理由を基に自分の考えを伝えたり、友達の意見と比べたりしながら話し合うことで、自分や友達の考えの良さに気づき、提案理由に沿った「ペア学年きずなアップ集会」の内容を決めることができる。

(2) 学習の展開

学習活動 ○児童の思考や反応	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」と判断した児童への指導と手立て	評価規準 (評価方法)
1 提案理由や本時のめあてを確認する。	◇ 提案理由の中で大切にしたいことを確認する。	
(司会グループ) S:提案理由や条件を意識しながら、よりよい意見が出し合えるよう、順序に沿って話し合いを進めよう。 A:よりよい意見が出し合えるよう、順序に沿って話し合いを進めよう。 (フロアー) S:3つの条件や提案理由をもとに、理由をつけて自分の考えを伝えたりよい考えを生かしたりして話し合おう。 A:3つの条件や提案理由をもとに、理由をつけて自分の考えを伝えよう。		
2 集会の内容と、内容に取り入れる工夫について話し合う。 話し合うこと①:「集会の内容」 ○フラフープくぐりがいいと思います。手をつないで、一つのフラフープをくぐると仲が深まると思うからです。 ○クイズ大会がいいと思います。クイズを解くのに、3、4年生が協力して解くと盛り上がるからです。 ○じゃんけん列車がいいと思います。スマイル遊びでやったときに、全校が一つになったので、きずなが深まると思います。 ○カラーコーンダッシュがいいと思います。応援する時に、ハイタッチや名前をよぶことができそうだからです。 話し合うこと②:「内容に取り入れる工夫」 ○クイズは、4年生や3年生に関係のあるものを入れたいと思います。そうすれば、それぞれの学年のことを考えることができるし、知ることもできるからです。 ○フラフープくぐりの時に、次の人の名前を言えればいいと思います。名前を覚えることができいいと思います。 ○その考えに賛成です。もっとよくするために、手をつなぐのは、3、4年生が交互にな	◇「内容」において、あらかじめ提案理由に沿っている内容を6つ程度選び、「工夫」について話し合う時間が確保できるようにする。 ◆賛成・心配意見の交流で終始して司会グループが困っている場合には、提案理由や3つの条件に気付くことができるようにタブレットを活用して伝える。 ◇合意形成の流れを賛成マークや心配マークを用いることで、収束に向けての見通しがもてるようにする。 ◇自分の意見を整理したり、相手の意見を取り入れたりできるようにグループやペアトークを設定する(アイデアが出ない、発言する児童が偏ってきた場合など)。 ◇納得した上で意見を変えるなど、合意形成を図ることが大切なことについて助言する。	○3つの条件や提案理由を基に自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりして、よいところを生かしながら話し合っている。 (発言・カード) 【思考・判断・表現】

るようにするといいですね。 3 決定事項を確認する。	〈きずなアップのための条件〉 ① お互いの名前をよび合える ② お互いにコミュニケーションがとれる ③ 3年生がしたいことである	
4 話合いの振り返りをする。 5 教師の話を聞く。 ・合意形成して決めることのよさ ・決定したことを実行していくことに対する期待感 ・今回の成長 など	◇振り返りを共有し、本時の話合いでの成就感をもつことができるようにする。 ◆振り返りに困っている児童には、「めあて」や「自分の成長」など具体的な姿を基に個別に問答し、一緒に振り返る。 ◇ 話合いの成就感をもつ事ができるように、話合いにおける態度、内容、司会グループの働きについて良かったところを具体的に評価する。	○集団で話し合って決めることのよさに気付いたり、決まったことを実践することへの期待感をもったりしている。 (発言・カード) 【主体的に学習に取り組む態度】

5 特別支援学級児童への支援・配慮

＜児童実態＞

- ・脊髄性筋萎縮症で全身の筋力がとても弱く動かせないため、学校では常時バギーを使用。
- ・人工呼吸器を使用しており、声を出すことができない。意思表示は眼球を動かして行う。
- ・医療的ケアを必要とするため、看護師が常駐。
- ・交流学級の友達とは、眼球の動きでコミュニケーションをとっている。
- ・交流教科は、音楽科、図画工作科、体育科（一部）、特別活動、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間

＜本時における支援・配慮＞

話合いの場面	支援・配慮
話し合うこと①「集会の内容」	・事前に、提案する遊びについて本児の考えを聞き出し、プリントに記入しておく。 ・本児が発言する意思を見せたら、特支担任が代わりに発言する。 ・賛成・心配カードを用意し、本児の気持ちを聞く。
話し合うこと②「内容に取り入れる工夫」	・話合いが次々進む中で、その場でタイムリーな意見は引き出しにくいですが、児童が何か伝えたような視線を向けたら、特支担任が聞き出すようにする。 ・決定の場面では選択肢から本児の意見を聞く。

	関連付けて考える力	伝わるように表現する力	主体的にやりきる力
S	㊦提案理由や3つの条件を満たすために、自分や友達の意見を比較し、良さを取り入れながら、ペア学年きずなアップ集会の内容やその工夫を考えている。 ㊦3つの条件や提案理由を関連付けて、良さを取り入れながら話し合いを進めている。	㊦3年生とのきずなが深まる会にするために、3つの条件や提案理由をもとに自分の考えを分かりやすく伝え、友達の考えの良さを生かしながら話し合っている。 ㊦提案理由に沿った話し合いができるように、計画に沿って的確に進行している。	㊦3年生とのきずなが深まる会にするために、積極的に話し合いに参加し、粘り強く自分の意見を伝えようとしている。 ㊦3年生とのきずなが深まる会にするために、意見を引き出そうとしたり、提案理由に沿って話し合いをまとめようとしたりしている。
A	㊦提案理由や3つの条件を満たすために、自分や友達の意見を比較しながら、ペア学年きずなアップ集会の内容やその工夫を考えている。 ㊦話し合いの順序を意識して進めている。	㊦3年生とのきずなが深まる会にするために、3つの条件や提案理由をもとに自分の考えを伝え、友達の考えを受け入れながら話し合っている。 ㊦提案理由に沿った話し合いができるように、計画に沿って進行している。	㊦3年生とのきずなが深まる会にするために、積極的に話し合いに参加し、自分の意見を伝えようとしている。 ㊦3年生とのきずなが深まる会にするために、意見を引き出そうとしたり、提案理由を確認したりしている。
B	㊦提案理由や3つの条件を満たすように、ペア学年きずなアップ集会の内容やその工夫を考えている。 ㊦みんなが話し合いに参加するように進めている。	㊦3年生とのきずなが深まる会にするために、3つの条件や提案理由をもとに自分の考えを伝え、話し合っている。 ㊦集会の内容について話し合いができるように、計画に沿って進行している。	㊦3年生とのきずなが深まる会にするために、話し合いに参加し、友達の意見を聞こうとしている。 ㊦3年生とのきずなが深まる会にするために、意見を引き出そうと声をかけている。

6 板書計画

第○回 につこりわくわく学級会

議題 「ペア学年きずなアップ集会」をしよう

ていあん理由

今
三年生とペアそうじをしていけるけれど、仲がよいとは言えない。

こうすると
三年生が楽しめる遊びを考えて、いっしょに楽しむと、

こうなる
三年生とのきずなが深まって、そうじや休けい、学習などで休よく活動できる。

話し合いのめあて

㊦3つの条件やていあん理由をもとに、理由をつけて自分の考えを伝えたり、よい考えを生かしたりして話し合おう。

話し合うこと① 「内ようについて」

○もうじゅうがり
○じゃんけん列車
○クイズ・などなど
○フラフープゲーム
○カラーコーンダッシュ
○おかみさん・何時？
○ダンス（幾億光年）

○何回もする↓ふれあい◎色んな子
○みんながつながっていく
△同じ人ばかりが答える↓楽しめない
○分かりやすく楽しく
○もり上がる、おうえん○
○楽しいけれど、バラバラ
○一緒におどる↓きずなも◎

話し合うこと② 「きずなを深める工夫について」

○もうじゅうがり：条件をつける↓「3、4年生の男女」
最後のグループ↓好きな物しようかい

○カラーコーンダッシュ：応援する（やる気アップ）
一回目と二回目の回数を比べる

○フラフープゲーム：三年生と四年生が交互になる
くぐる時に名前を言って応えんする

決まったこと

○もうじゅうがり
○カラーコーンダッシュ
○フラフープゲーム

へきずなアップのための3つの条件

①お互いの名前をよび合える
②お互いにコミュニケーションがとれる
③三年生がしたいこと

先生からのお話